

す、と同時に私の夢でもございます。

## 私の顔を見て

野球行脚の考えは、三十三年に現役を辞めて正眼寺に参禅したとき、今後どうするかと色々考えましたが、そのひとつでした。現役を辞め評論家になるか、コーチとして残るか、野球界から足を洗うかいろいろの思いが交錯してきてね。でもよく考えてみると、こうして現役を永い間やらせてもらって野球で飯が食え、今日の野球人生を歩かせてもらっているのもファンのおかげだし、ファンに感謝するならば報いる道は何かということの中に青少年に正しい野球を普及してゆくという考えがあったわけです。

ところが結局コーチとして残りその後監督となったわけですが、いつかはそういう仕事をやるかというのが抱き続けた夢でした。

私の顔を見てください。監督を辞めた寂しさなんか少しもないでしょう。希望に満ち溢れた顔でしょう。アッハハハハ

## 野球の中に社会の縮図が

野球というものは非常にいい面を含んでいますよ。現代社会を生きてゆくために。例えばチームワークというものの、チームプレーですね、これをイコールすれば

ひとつの間とは、球は動いてきていますが一瞬一瞬は点となって近づいてくるわけです。近づいてくる球を一瞬の間で捕え停止した感じで打つということですね。理屈でなく練習で培った間ですね。身体で覚えた技術を駆使していくことですが、頭で解っているも身体で出来なければ何の価値もありません。

## 感謝の気持ちでプレーを

チームワークを整えるのは口先ばかりでは駄目です。技術だけ教えてもチームワークはでき上がりません。根本になるものは素直な心だろろうと思ふんです。素直な気持ちで自分は野球で食えるということになれば当然感謝の気持ちというものが生ずる筈です。そんなら報恩ということになれば、プレーをどういう心掛けでやればよいかという精神的な考え方ができきます。

ここにはじめて、感謝の気持ちというものがある。チームプレーの肉面的な支えになって強固なチームワークができると思ひます。

そういう意識を選手に持たせるために

ば日本の社会というものに置き替えられず。

一人一人のプレーヤーの実力を出すためには猛練習をしながら技術を上げていくわけです。有機的に一人一人のプレーヤーが各自の職責をまっとうしながらガツチリと手を組んでチームの目的である勝利というものに力を合わせてゆくわけですね。それを全く今の社会というものに視野を広めると当てはまるわけですね。やり方、実際面は違いますがその精神においては全く同一だと思ひます。

特に少年達には難しいことを言うよりも、王、長島は皆さんが目を見張るようなプレーをしているけれども実は大変な練習をしているんですよ。いい結果を生むためにはそれだけの練習をしたり工夫をしたり、また日常生活に気を配り常に体調を整えておいて始めてあゝいう成績が残せるんですよと言った方がいいと思ひます。

## つらかったこと、

## 嬉しかったこと

野球生活の中でつらかったことは、昭和十三年に入団して春のシーズンには一緒に入った吉原はすぐ試合にでて名前が新聞にでましたけど、私は余りいいピッチャーじゃなかったものでそれから試合には出してもらえない、従って名前もでな

は、少なくとも自分が本当の修業して後輩である選手を引く張っていけるところまで自分を高めなければならなかったということですよ。

## おいしかったカレーライス

少年時代は人吉でした。熊本にはオール熊本少年野球大会にでてきてね、藤崎台で試合をしておったわけですよ。昔は馬場でした。今みたいに立派なものではありません。

今でも思い出しますがキャップベン会議で部長先生と一緒に熊本にでてきた時に、銀丁デパートで何銭でしたかね、ライスカレーを食べさせてもらいました。世の中にこんなうまいものがあるかと思ひてね、びっくりしたことがありますよ。

## 人吉の思い出

私は今の人吉について語ることはできませんが、昔の人吉は良かったですよ。今みたいに「がさ」ついていかなかったし、人を騙ましてひと儲けという人もいなかったですよ。「ひとよし」という位ですからね。アッハハハ……

木炭はあり、米、茶もある。球磨川の船が八代との唯一の交通機関で荷物を運

いんです。故郷から親父が心配して「お前、病気になるんじゃないか」と言って手紙がくるのが一番つらかったですね。

もうひとつは、何とか自分のバッティグンというものを完成したい、自分なりに自分の納得のできる技術のコツを得たいと努力したんですけどなかなかできなくて、テキサスの哲なんて言われた時代がありましたよ。ヒットがでてでも全部テキサス性なんです。その頃は夢にまで自分のバッターボックスの姿がでてくるまで真剣にとり組みました。

嬉しかったというのは、私の人生からは、自分なりに打撃のコツが「これだ」とつかまえることができたということですよ。と同時にこれが正眼寺の梶浦老師に「君がつかんだそのものは禅と一緒だ、つかまえた球そのものをもうひとつ大きく展開していくように努力していけ」と言われた時には本当に嬉しかったです。自分のやってきたことが日本古来からの仏教である禅で間違いがなかったと証明されたことは全く嬉しかったですね。

## 偉大な選手たち

選手と言えは何といっても、ONが一番ですね。巨人軍はONの力で攻撃型のチームとして優勝してきたチームですからね。

んでいたそうです。私の父も水上運搬業みたいなことをやっていたみたいです。そういう隔絶された状態が郷土色をかえって豊かにしたみたいですね。となり近所、朝起きれば挨拶を交し、仲良く、助け合って生活していくといった風習のある郷里でしたよ。

## 熊本県高校野球を憂うる

野球というのは苦しい練習で上達をします。またこれだけ練習するんなら負けたくないという気力も出てくるし、そのファイトがチームを強くすると思ひます。

私は野球はハンズグリスポーツだと考えます。恵まれた人ではなかなか上手になれません。我々の熊工時代のチームは大體貧乏人の子が多かったですよ。特に熊工というのは卒業即就職という学校でしょう。だからそこに学ぶ者は野球でもやっつて少しでも有利な条件で就職しようとしたわけですよ。

我々の気持ちとしてはこれだけ苦労してやっているんだから、何とかして甲子園までいかなければという気持ちがあるんですけど強かったですよ。

こんなこと言って怒られるかもしれないけれど、熊本の高校生諸君は遊び事に野球をやっているのではないですか、火

ONは言われるように偉大な選手ですが、何が偉大かと言えは、あれだけの力を持ちながらスポーツマンシップを兼ね備えた大紳士、大社会人だということですよ。そこに彼等の良さがあります。

彼らは巨人軍の中で一番練習をする人達です。天才的な選手ですが努力を怠りません。

## 野球は身体でおぼえるもの

私は球ぎわという言葉を使います。これは心技一体を極めた人のプレーですね。

状況判断でヒットと思われる球でもそれをヒットだからと認めてる間は駄目ですよ、その球に何故飛び込まんかと言ひます。守備に懸命になっていけば飛び込みますよ。セーフ・アウトは別問題です。そこに球があれば飛び込み何とかが捕らうというプレーができて初めて野球に徹しているプレーヤーではないかということ球ぎわに強い選手という表現をしているわけですよ。

バッティングで私の場合には、打つ瞬間に球が一瞬停まっていた。停まってることをすかさずポンと打つからヒットの確率が高かったわけですよ。バッターはストライクゾーンという枠の中の球しか打たないでいいわけですね。考えてみれば、上下横からゾーンに入ってくる

の国の魂が今や骨抜きになっているんじゃないですか。

全国大会に他県からいい選手が出てくるのに熊本はなかなかいい選手が出てこないですね、ちょっと悔しいですよ。

## 「無一物中無尺蔵」

私の好きな言葉は「無一物中無尺蔵」という禅の言葉です。自分が無心になれば全てが入ってくるという意味ですね。生れ落ちては何にもないんです。ないところから出てきた苦しき、悲しみでも考えようによっては全部すばらしいことだというように展開できます。名誉も、お金も、地位もみなそうです。無一物だからこそ、無尺蔵にあるんだということですね。

## 凝り性です

凝り性ですね。パチンコ、バラ・菊づくりも手がけました。その間ゴルフもやりましたし、現在、「さつきつじ」を集めています。暇がなくて駄目ですね。でもそんな跡よりもこれからは青少年を育てなければなりません。その事を一生懸命やるのが世のため、人のためになることだと思ひます。